CNEAS
Center for Northeast Asian Studies

戦争記憶研究会 第3回シンポジウム

戦争記憶のギャップを乗り越える

世界が政治的な緊張関係にあるいまこそ、学術的対話を

2026.3.25 水　10:00～17:00

会場

慶應大学日吉キャンパス、独立館D307　（ZOOMによるハイブリッド開催）

※会場へのアクセス：東急線日吉駅東口から横断歩道をわたり左側にある建物が独立館です。建物の駅側は入口が地下2階になっており、そこから3階まであがってください（2階には立ち入らないようお願いします）

◆ 第一部　特別講演　10:00～12:00

講　　師：王　広涛　准教授
（中国 復旦大学 日本研究センター）

論　　題：「戦争の記憶から記憶の戦争へ
――日中記憶政治の現在――」

コメント：石井　弓　准教授
（東北大学 東北アジア研究センター）

質疑応答

◆ 第二部　ラウンドテーブル　14:00～17:00

論　　題：「戦争記憶のギャップをどう乗り越えるか」

登 壇 者：越野　剛　教授　（慶應義塾大学）
今井　昭夫　名誉教授（東京外国語大学）
中村　平　教授　（広島大学）
越智　郁乃　准教授　（東北大学）
村本　邦子　教授　（立命館大学）
王　広涛　准教授　（復旦大学）
石井　弓　准教授　（東北大学）

◆ 休　憩　15:10～15:25

◆ 総合討論　15:25～17:00

世界が対立の構図を深め、中国と日本は政治的な緊張関係にある。本シンポジウムでは、政治が対立する状況においてアカデミズムに何ができるかを考え、アジアにおける対話の空間を構築することを目指す。

中国と日本の間には、常に戦争記憶のギャップが存在してきた。中国では戦争の英雄を勝利の象徴としてきたし、強制労働や性暴力被害者をはじめとする被害の記憶は80年代以降公的に語られてきた。一方、日本ではアメリカへの敗戦として、広島・長崎、空襲による被害の記憶が戦争を象徴し、アジアにおける加害の記憶を覆い隠してきた。両国の間にある埋めがたいギャップは、政治に利用されることによって、過去の戦争がゆがんだ形で想起され、相互の対話を困難にしてきたと言えよう。

本シンポジウムでは、このような問題に対し、中国復旦大学より王広涛先生をお呼びし、中国そして日本の記憶政治についてご講演頂く。後半はアジア全体に目を向け、中国・台湾、ロシア、ベトナム、沖縄、そして日本本土の視点から、今ある戦争記憶のギャップをどう乗り越えるかを議論する。

◉ 申込締切：3月23日（月）

会場参加は申込不要、オンライン参加は事前登録制
右のQRコードまたは下記のGoogleフォームよりご登録ください。
登録後、参加方法のご案内をメールにてお送りします。
参加申込（Googleフォーム）https://forms.gle/oxFzpWjwJ5zdz4bSA

◉ お問い合わせフォーム：https://forms.gle/dx9Bo2qSQRjAADm5A

◆ 主催：東北大学東北アジア研究センター共同研究「戦争記憶の国際比較」

◆ 共催：東北大学統合日本学研究センター共同研究「戦争記憶の世代間継承に関する学際的研究:トラウマの語りと共有に注目して」
科学研究費基盤（B）「戦時下の教会―ウクライナとその周辺国における宗教・国家・社会」
人間文化研究機構グローバル地域研究推進事業東ユーラシア研究プロジェクト

◆ 後援：慶應義塾大学教養研究センター